



最も権威ある医学雑誌の一つ「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン（NEJM）」の元編集長マーシャ・

エンジェルが書いた『ビッグ・ファーマ製薬会社の真実』（2005年）は医学論文が製薬会社によっていかに歪められてきたかを白日の下にさらした。製薬会社は薬を売るために「病気を作る」という衝撃の内容である。

ユーチューブは9月29日、コロナやワクチンに関する「誤情報」を削除するとの方針を明らかにした。現在治験が行われているイベルメクチンを「推奨」する動画も削除されるといふ。「誤情報」の削除は他のSNSでも進んでいる。接種が進むファイザーやモデルナのワクチンはこれまで人類に使われたことのない「核酸ワクチン」である。「安全性」を巡って医学的にも議論が続いている。mRNAが作り出す大量の抗原タンパクの体内での挙動や脂質のコーティングに使われ

ワクチン「情報統制」に目をこらす

るポリエチレングリコール（PEG）の人体への影響、さらにはワクチンを打つことによって感染しやすくなる抗体依存性免疫増強の有無などである。事実ワクチン接種により心筋炎や心筋症が若い男性を中心に発生しており、スウェーデンなどは30歳以下へのモデルナワクチンの接種を停止した。

国立感染症研究所のOBの一人は、こうした情報統制がNEJMにも及んでいると指摘する。ファイザー製ワクチンの「有効性」と「安全性」を示すデータは同誌に2本の論文として掲載されている。9月13日の最新論文をみると執筆者32人のうち12人はファイザーの研究者である。ある専門家は「到底論文の公正性が保たれているとは思えない」と批判する。ワクチンは健康な多数の老若男女に接種する。安易に「誤情報」のレッテルを貼って、「正しいネガティブ情報」まで闇に葬られることがないよう、メディアは今こそ目を光らせなければならぬだろう。

日本テレビ出身 倉澤 治雄